

レセプトデータベース解析に基づく寄生虫性食中毒事例の検出に関する検討

分担研究者 杉山 広 (国立感染症研究所寄生動物部)
研究協力者 森嶋康之 (国立感染症研究所寄生動物部)

研究要旨

旋毛虫症、肺吸虫症、マンソン孤虫症という3種類の寄生虫性食中毒を例として取り上げ、その発生状況に関して、食中毒統計に掲載されている事例数とレセプト解析に基づく事例数を比較した。特に肺吸虫食中毒ではレセプトデータベース検索では毎年事例が検出されたが、食中毒統計への掲載はなかった。希少疾患であるジビエ喫食に起因した寄生虫性食中毒の発生実態を詳らかにするには、レセプトデータの解析も一つの手段として有効であると考えられた。

A. 研究目的

わが国では、飲食に起因する健康被害を食中毒として取り扱うことが、食品衛生法に則した行政上の方針とされる。また食中毒の病因となる物質は食品衛生法施行規則において整理され、寄生虫もその中に含まれる。従って食中毒統計を紐解けば、例えばジビエ(野生鳥獣肉)を原因とする寄生虫性食中毒事例の発生状況を知ることができる(クマ肉の喫食による旋毛虫症やイノシシ肉の喫食による肺吸虫症)。しかし食中毒統計における事例の掲載数は、病因の種類を問わず、いずれの場合も実態より過少であると指摘されている。そこで、レセプト(診療報酬明細書)より作成されたデータベースに基づく検討を行い、ジビエ(野生鳥獣肉)を原因とする寄生虫性食中毒の発生状況を調べて比較した。

B. 研究方法

対象とする寄生虫性食中毒として、クマ肉の喫食による旋毛虫症、イノシシ肉の喫食による肺吸虫症、イノシシ肉の喫食によるマンソン孤虫症を選択した。食中毒統計は2016年から2022年の掲載分を対象とした。レセプトに関しては、認定民間機関JMDCの商用匿名化レセプトデータベースを利用した(2016年1月から2020年12月までの5年間、各年の平均は約843万人)。傷病名欄に旋毛虫(ICD-10による細分類がB75)、肺吸虫(同B66.4)、マンソン孤虫(同B70.1))を含むレセプトを対象年ごとにそれぞれ抽出した。なおレセプトデータから患者1人が抽出された場合、日本全体で14.98人(以後約15人とする)の患者

が発生したと推計した(日本総人口12,630万人/843万人は約15人だから)。

C. 研究結果

(1) 旋毛虫食中毒

食中毒統計に掲載された事件数(患者数)とレセプトデータベースでの検索数は表1のとおりである。レセプトデータから食中毒統計に掲載された患者数を正しく導き出すことはできず、また食中毒事件の発生年とレセプトデータベースへの掲載年にずれもあったが、食中毒事例数は確認できた。

表1. ジビエ喫食による寄生虫性食中毒の発生状況：食中毒統計(統計)とレセプトデータとの比較

年	旋毛虫食中毒		肺吸虫食中毒	
	統計	レセプト	統計	レセプト
2016	21	0	0	1(15)
2017	0	0	0	1(15)
2018	3	1(15)	0	4(60)
2019	9	1(15)	0	2(30)
2020	0	1(15)	0	(30)
2021	0	NE	0	NE
2022	1	NE	0	NE

NE: 検討せず(予算の関係で資料請求できず)
註: マンソン裂頭条虫食中毒は事例数がなく表より割愛

(2) 肺吸虫食中毒

食中毒統計では、事件数と患者数はともにゼロであった。商用レセプトデータの検索では、2014年から2020年まで、毎年患者が検出された。

(3) マンソン裂頭条虫食中毒(マンソン孤虫

症)

食中毒統計およびレセプトデータベースの事件数・患者数はゼロであった。

D. 考察

食品衛生法施行規則の一部が2012年12月28日に改正された。その結果、寄生虫も食中毒の病因物質の種別として、食中毒事件票に新たに追加された。寄生虫性食中毒患者の発生状況を的確に把握し、系統的な調査を行い、食品衛生対策のための基礎資料を得ることが目的とされた。しかし、肺吸虫食中毒のように、レセプト解析により患者発生が確認されたのに、食中毒統計には、その患者が収載されていない例も多い。患者を診断した医師が食品衛生法・第58条を順守せず、保健所に「食中毒患者等届出票」を提出していなかったことになる。

事例が見付かれれば積極的に届け出て、食中毒統計に収載する必要がある。それと並行してレセプトデータの抽出を継続し、食中毒事例の存在を明らかにすることも必要である

う。ジビエ生食に起因する寄生虫感染のリスクを低減に繋がる有効な手段になろうと考えられるからである。

E. 結論

旋毛虫症、肺吸虫症、マンソン孤虫症という3種類の寄生虫性食中毒を例として取り上げ、その発生状況について、2016年以降の食中毒統計に収載されている事例数とレセプト解析に基づく事例数を調べて比較した。特に肺吸虫食中毒では、レセプトデータベース検索で毎年事例が検出されたが、食中毒統計への収載がなかった。ジビエ喫食による寄生虫性食中毒は希少疾患であり、発生実態の解明にはレセプトデータベースの活用も、一つの手段として有効であると考えられた。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表；2. 学会発表 ともになし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得；2. 実用新案登録 ともになし